

案件概要書

2013年12月24日

国際協力機構東・中央アジア部中央アジア・コーカサス課

1. 案件名（国名）

国名： キルギス共和国

案件名： ビシュケク-オシュ道路雪崩対策計画（The Project for Avalanche Protection on Bishkek-Osh Road）

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における道路セクターの開発実績（現状）と課題

キルギス共和国には約 34,000km の道路網が整備されており、国内の人・物の移動の 95%を道路交通に依存している。特にビシュケク-オシュ道路は首都ビシュケクと第二の都市オシュを結ぶ唯一の道路であり、また同国と周辺国とを結ぶ国際幹線道路でもあるため、国内で最も重要な道路の一つに位置づけられるが、山岳地帯を通過することから、冬期には雪崩等の自然災害が多発している。2012 年には同道路の 246km 地点で発生した雪崩により、1 週間終日通行止め、1 か月間日中通行止めとなるだけでなく、10 名の死者が出るなど人的被害も発生している。このような冬期の道路網の遮断による輸送時間の増加は、国内の物資の輸送や周辺国との取引に支障をきたし、経済活性化の阻害要因となっている。

(2) 当該国における道路セクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

キルギス政府の中期開発計画（2013-2017）では、重点分野の一つとして道路セクターが掲げられ、周辺地域と国内の市場へのアクセスの確保が開発戦略の方向性とされている本事業はこの政策に合致するものであり、実施の必要性・妥当性は高い。

(3) 道路セクターに対する我が国の援助方針

対キルギス国別援助方針における重点分野として「運輸インフラ維持管理と地域間格差の是正」が定められており、本事業はこの方針に合致する。

【道路セクターに対する我が国の主な協力実績】

- ビシュケク-オシュ道路改修事業、同（Ⅱ）（有償：1996、1998）
- 道路維持管理能力向上プロジェクト（技協：2008-2011）
- ビシュケク-オシュ道路クガルト川橋梁架け替え計画（無償：2013）

(4) 他の援助機関の対応

アジア開発銀行、世界銀行などが道路整備に対する資金協力等を行っている。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

ビシュケク-オシュ道路上で雪崩が最も多く発生する 246km 地点において、雪崩対策を実施することにより、冬季の道路輸送力及び安全性の向上を図ることで、同国の経済活性化に寄与する。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

ビシュケクーオシュ道路 246 km地点

(3) 事業概要

(ア) 土木工事、調達機器等の内容

【施設】 300m のスノーシェットの設置を想定（調査により確認）

(イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：調査により確認

(ウ) 調達・施工方法：調査により確認。

(4) 事業実施体制

実施機関は運輸通信省（Ministry of Transport and Communications : MOTC）、完工後は同省傘下の道路維持管理局が維持管理を行う。

(5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

(ア) 環境社会配慮

① カテゴリ分類： B

② カテゴリ分類の根拠： 本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

(6) 他スキーム、他ドナー、他案件等との連携： ビシュケクーオシュ道路の改修に対しては、我が国（165km を整備）の他、アジア開発銀行、イスラム開発銀行が支援しており、総延長 672km のうち、557km が改修済み。本事業は当該協力の成果の向上に寄与するものである。

(7) その他特記事項： 特になし。

4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

パプアニューギニア、ホンジュラスなどの橋梁案件では、広報効果に関して埋め込み型銘板の視認性の低さが指摘されている。

(2) 本事業への教訓

上記指摘を踏まえ、本事業では、我が国協力の広報効果を高める方策を検討する。

以上

〔別添資料〕 地図



ビシュケク-オシュ道路雪崩対策計画地

別添資料

